

神奈川県保健医療計画 進捗状況評価調書

<項目>

第8章 個別の疾病対策等

第3節 感染症対策

とりまとめ担当課：健康危機管理課

1 課題に対するこれまでの取組実績

(1) 感染症対策	
→	新型インフルエンザ等対策本部開催訓練及び情報伝達訓練実施（1回）
→	新型インフルエンザ等対応訓練（実動訓練）実施（1回）
→	新型インフルエンザ等専門委員会開催（1回）
→	地域医療体制対策会議開催（各保健福祉事務所等にて開催：計5回）
→	蚊媒介感染症対策として蚊の生息調査を実施（9か所）
→	蚊媒介感染症対策として県のたより、ホームページにて注意喚起を行った。
(2) エイズ対策	
→	同性間性的接触を行う男性を対象とした即日のHIV検査を実施した（6回・109名）
→	HIV検査従事者を対象として、セクシュアリティへの理解を深めるための研修を実施した。（1回・18名）
→	中学生・高校生を対象として、性感染症の予防啓発のための講演会を実施した。（77校・11793名）
→	在宅医療・介護業界におけるHIV感染者・エイズ患者受入れの環境整備を目的とした研修を実施した。（1回・3名）
(3) 結核対策	
→	私立学校や社会福祉施設等に対し定期の健康診断にあたっての補助を行った。（136件） また、患者発生時においては、各保健福祉事務所が積極的に接触者健診を実施した。（延べ1068人）
→	服薬支援について、患者に直接面会を図った。
→	医療従事者に対する研修を実施した。（5回）
→	保健師等を研修に参加させた。（12名）
(4) 予防接種の推進	
→	風しん撲滅作戦
	<概要>
	・2020年東京オリンピック・パラリンピックに向け、「神奈川県から風しんの流行を発生させない」「今後妊娠する人から先天性風しん症候群を出さない」ことを目指し、予防接種の必要性を訴える広報戦略の展開、市町村が行う予防接種費用の助成に対する補助の継続（50,233件）、国庫補助による無料の風しん抗体検査（4,025件）、保健所設置市が実施した国庫補助対象外の風しん抗体検査への補助（川崎市）、企業への風しん予

<p>防の働きかけ（164 法人）等を行った。</p> <p>→ 平成 30 年 風しん非常事態宣言</p> <p><概要></p> <ul style="list-style-type: none"> 平成 30 年 7 月以降、首都圏を中心に風しん患者が急増。同宣言に基づき、次の取組みを推進した。
--

2 参考指標の推移

指標名	単位	神奈川県内					参考指標を設定した理由	備考
		H30	R 1	R 2	R 3	R 4		

3 課題ごとの進捗状況の評価

(1) 感染症対策

評価	(A) ・ B ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 新型インフルエンザ等対策における各種訓練の実施や会議の開催、蚊媒介感染症対策における生息調査等を行い、感染症対策を進めることができた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 国、市町村、医療機関等、関係機関との連携した危機管理体制の整備について、順調に進捗している。

(2) エイズ対策

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> セクシュアルマイノリティに配慮した HIV 検査を実施できた。 中高生の性感染症に対する理解を深め予防啓発に繋げることができた。 高齢 HIV 感染者の診療や受入れに関する研修を行い、医療・介護従事者の理解を深めることができた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> セクシュアルマイノリティを対象とした検査を定期的実施し、狙い通りの効果を得るなど、課題解決に向け順調に進歩している。 訪問医療介護事業者を対象とした実地研修を継続的に実施した。

(3) 結核対策

評価	A ・ (B) ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 接触者健診や補助を利用した健康診断による発病の恐れがある者の発見を通して、早期に医療機関受診へ繋げることができた。また、医療従事者に対して早期診断に向けた意識づけを行うことができた。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 県全体での新規登録者数は、平成 21 年以降、若干ではあるものの毎年減少が認められるなど、課題解決に向けて比較的順調に進捗している。また、医療従事者

	研修についても、多くの関係者が参加しており、結核の早期診断に関する意識の高まりを見ることができる。
--	---

(4) 予防接種の推進

評価	Ⓐ ・ B ・ C ・ D
評価分析	<ul style="list-style-type: none"> 県内の風しん患者発生報告数が急増したものの、平成31年3月現在、県内の風しん患者発生報告数は減少傾向にあり、先天性風しん症候群患者報告数はゼロとなっている。
評価理由	<ul style="list-style-type: none"> 風しん予防接種費用助成の効果等により、風しんの流行は沈静化傾向にある。

4 総合評価

評価	評価理由
A	感染症の課題については、いずれについても、課題解決に向けて順調に進捗している。